

# 中期目標の達成状況に関する評価結果

室蘭工業大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

# 目 次

法人の特徴	.....	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	.....	5
《本文》	.....	7
《判定結果一覧表》	.....	15

## 法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

21世紀に入り、世界は持続可能な社会の構築を共通の課題としながら、相互依存関係を深めている。競争と協調を伴う国際社会において、新しい知識・技術・情報が未来を拓く原動力として広く認識されるに至った。このような知識を基盤とする社会の到来によって、幅広い教養と国際性、深い専門性と倫理観をもった科学技術者の養成が求められている。

室蘭工業大学の第一の使命はこのような国際的通用性をもった科学技術者を育成することである。この使命を果たすために、学部及び大学院博士前期課程を通じた教育を重視し、学士課程では幅広い教養と基礎科学及び工学に関する専門基礎知識を教授する総合的な理工学教育を行う。大学院博士前期課程においては、専門知識の深化と課題解決能力の涵養を重点とした教育研究を行い、それらを通じて高度な専門科学技術者を育成する。さらに大学院博士後期課程では特に優れた学生を受け入れ、工学のフロンティアを切り開く教育研究を行い、創造的な研究者・科学技術者を養成する。

未来を拓く科学や技術革新は新たな知識・技術・情報の創造と普及にかかっている。室蘭工業大学の第二の使命は科学技術分野における知の創造である。この使命を果たすために、教育組織とは独立に柔軟な研究領域を組織し、各領域において特色ある研究を展開する。また、本学の特色を活かした特定分野における研究の高度化を推進する。これらの研究を展開することにより、室蘭工業大学はその成果を世界に発信するとともに、地域における知の拠点としての役割を果たす。

室蘭工業大学が位置する地域においては、環境産業・情報産業・知識集約型産業の育成やものづくりを基本とする産業政策を掲げている。地域のこのような目標を考慮しつつ、社会を先導する科学技術に関する教育研究を推進し、学術研究成果を積極的に発信することにより、この地域の発展に貢献する。産学官連携、地域貢献、これが室蘭工業大学の第三の使命である。

科学技術に関する教育研究という使命は、類似の機能を有する理工系大学や学部との間で共通する。また、社会が要請する新たな人材需要や学術研究は、理工系とは機能を異にする大学や学部との連携・協働により実現への道が開かれる。室蘭工業大学は自らの互いに密接に関連する3つの使命を全うするためにも、また、新たな教育研究分野を共同で創り出すためにも、国内外の大学との連携・交流を積極的に進め、大学間ネットワークを実現する。

### 1 教育

#### (1) (一社) 日本技術者教育認定機構 (JABEE) 認定プログラム

国際的に通用する高度技術者育成のため、昼間コースにおいて全4学科12コース中11コースの8教育プログラムが継続してJABEEの認定を受けている。また、平成26年度に未認定の航空宇宙システム工学コース教育プログラムが外部評価によってJABEE基準に準じていることが認められ、学士課程全12コースでJABEE基準又は同基準に準じた教育を実施している。

#### (2) 分野横断型教育プログラムの開設

学士教育課程において複数の学科・コースに開講されているロボット技術関連科目を集約した「ロボット工学教育プログラム」を開設し、分野横断的な教育を行っている。

#### (3) 副専門教育課程

専門教育（主専門教育課程）と複眼的な視点から専門教育を補完するための副専門教育（副専門教育課程）を設け、くさび型のカリキュラムを編成している。これ

は、工学系大学卒業者が専門分野に偏ることなく広い視野に立つ総合的価値判断能力を備え、深い見識を身に付け、より一層豊かな、幅広い専門技術者となることを目指すものである。

(4) 大学院博士前期課程

学士課程と通じた総合的な理工学教育を重視し、専門知識の深化と課題解決能力の涵養を重点とした教育研究を行い、それらを通じて高度な専門科学技術者を育成するとともに、本学の強み・特長を伸ばすため、全学を挙げて教育カリキュラム改革を推進している。

(5) 大学院博士後期課程

工学のフロンティアを切り開く教育研究を行い、創造的な研究者・科学技術者を育成するために、専門性の深化とともに、産業界が求める「イノベーション博士人材」の育成に尽力している。

## 2 学生支援

(1) 学生への修学支援の充実

修学継続の支援策として、学力優秀でありながら、経済的困窮から勉学継続が困難な学生への支援制度を創設し、学部学生及び大学院博士前期課程学生に給付金を支援しているほか、大学院博士後期課程社会人学生への大学独自の支援として、半期分ごとの授業料相当額の奨学金給付を実施している。

また、女子学生の修学を生活面、経済面から支援する目的で女子寮を設置した。

(2) ものづくり実践教育に関する支援体制の充実

ロボット技術に関する教育・研究に活用できる「ロボットアリーナ」の創設、ものづくりに関する課外活動・自発的な学習を支援する「クレモ工房」の設置など、学生の自発的・意欲的な学習や実習の支援体制を整備している。

## 3 研究

(1) 基盤研究の推進

研究領域内の基盤的研究をより推進するため、各領域の研究ユニットの研究費を業績評価と計画評価に基づき傾斜配分して支援している。

(2) 重点的に取り組む研究分野の推進

独創的・先進的研究を戦略的に推進するため、本学の重点分野である環境分野については環境科学・防災研究センター及び環境調和材料工学研究センターに、航空宇宙機システム分野については航空宇宙機システム研究センターに研究費を重点配分して支援している。

## 4 社会との連携、国際交流

(1) 地方創生に取り組む体制の整備

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC プラス）」として、本学の取組「『ものづくり・人材』が拓く『まち・ひと・しごとづくり』」（事業期間：平成 31 年度まで）の採択を受けて、北海道内の理工系 4 大学と 4 高専、9 自治体や企業等が参加するコンソーシアムを設置し、事業協働地域が一体となって地方創生に取り組む体制を整備している。

## (2) 知の地域拠点としての取組

各種公開講座、小中高生に対する理工系分野の啓発活動に向けての大学開放事業、初中等教育機関教員の免許更新時講習、各種研修・講習プログラム等の実施や地方自治体の各種審議会等への教職員派遣を通じて、知の地域拠点としての役割を担っている。

## (3) 国際交流活動の推進

42 の大学・研究機関と国際学術交流協定を締結し、短期留学、語学研修等の海外研修交換プログラムや共同セミナーを実施している。また、留学生の招致、各種奨学金による支援、受入施設の整備等を進めた結果、留学生数は増加傾向にある。

## [個性の伸長に向けた取組]

- 先進的な物質・材料の創成に関する多様な専門技術や周辺科学技術の必要性を認識し、グローバルで複眼的な視点から研究を遂行する能力・問題を解決する能力の向上を目的として、平成 24 年度に「先進マテリアル工学教育プログラム（現：環境調和材料工学教育プログラム）」を開設した。本プログラムでは、研究・実践能力や応用力を高める教育を重視した科目を展開し、学生が所属する研究室とは別の研究室で研究を行う学内インターンシップ科目を設置するなどの特色ある教育プログラムとなっており、積極的な受講を促している。

また、学内インターンシップ科目については、平成 26 年度改組後から全専攻共通科目として展開している。

(関連する中期計画) 計画番号 1-1-3-1

- JABEE の認定を第 1 期中期目標期間から継続的に受審することで国際的に通用する技術者を育成するための教育として質の保証を図っている。ワシントン協定下で国際的同等性が保証された教育を学士課程 8 教育プログラムで展開している。

(関連する中期計画) 計画番号 1-1-2-3

## [東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

- 東日本大震災からの復旧・復興へ全学的に取り組むため、平成 23 年度から 3 年間、学長裁量経費による「東日本大震災調査・研究費補助事業」を実施した。

この事業は、本学の教員が行う調査・研究等の活動に対する支援を行うことによって、災害からの復旧・復興への貢献や今後の災害対策に資するとともに、本学の研究活動を推進するものである。本事業では、災害廃棄物の最終処分法の検討、環境放射能マップの作成、震災船舶の解体状況調査等を行った。

- 東日本大震災の大津波で宮城県気仙沼市の JR 鹿折唐桑駅駅前に打ち上げられた「第 18 共徳丸」(330 トン) の解体を NPO 法人シップリサイクル室蘭が行うに当たって、教員等の派遣や解体技術の提供など人的、技術的な支援を行った。



## 評価結果

### 《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、室蘭工業大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

### ＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
<b>(Ⅰ) 教育に関する目標</b>	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	3	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	4	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			3	
<b>(Ⅱ) 研究に関する目標</b>	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好		2	1	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			4	
<b>(Ⅲ) その他の目標</b>	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好		1	3	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			3	
③ 大学連携に関する目標	おおむね良好			1	
④ 男女共同参画に関する目標	おおむね良好			1	

### ＜主な特記すべき点＞

#### 注目すべき取組

- 平成 23 年度に社会連携統括本部を設置し、ギロチンシャー用耐摩耗切断刃の共同開発やホルンテーパ管冷間成型加工機の開発等の新技術を普及し、地域の活性化を促進している。平成 27 年度に文部科学省の地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の採択により、室蘭工業大学を拠点とする「「ものづくり・人材」が拓く「まち・ひと・しごとづくり」」の取組として、北海道内の理工系 4 大学（北見工業大学、北海道科学大学、千歳科学技術大学、室蘭工業大学）、4 工業高等専門学校（苫小牧工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、釧路工業高等専門学校、函館工業高等専門学校）、9 自治体（北海道、室蘭市、北見市、札幌市、千歳市、苫小牧市、旭川市、釧路市、函館市）や企業等が参加するコンソーシアムを設立し、北海道での地方創生を図る事業を進めている。（中期計画 3-1-1-1）

### ＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 東日本大震災からの復旧・復興へ全学的に取り組むため、平成 23 年度から 3 年間、学長裁量経費による「東日本大震災調査・研究費補助事業」を実施した。

この事業は、室蘭工業大学の教員が行う調査・研究等の活動に対する支援を行うことによって、災害からの復旧・復興への貢献や今後の災害対策に資するとともに、室蘭工業大学の研究活動を推進するものである。本事業では、災害廃棄物の最終処分法の検討、環境放射能マップの作成、震災船舶の解体状況調査等を行った。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

## 《本文》

### (I) 教育に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

##### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 学士課程と大学院博士前期課程との接続性、系統性を持つ教育組織の編成  
中期目標(小項目)「科学技術分野における中核的人材を育成するために、学士課程と大学院博士前期課程を通じた教育を重視する。」について、平成26年度の大学院博士前期課程の改組再編にあわせて、カリキュラム・ポリシーを整備している。また、学士課程との接続性及び系統性を持つよう工夫を行っており、大学院博士前期課程の留年率は、平成22年度の2.5%から平成27年度の1.8%へ減少している。(中期計画1-1-1-1)

(特色ある点)

○MOT 教育プログラム及び先進マテリアル工学教育プログラムの実施

中期目標（小項目）「大学院博士前期課程では、科学技術に関するさらに高度な学習に意欲をもち、課題解決のための基礎的素養を備えた入学者を受け入れ、幅広い問題への関心と高い課題解決能力を備えた高度専門科学技術者を育成する。」について、工学研究科博士前期課程では、企業や組織が取り組む技術開発を企業・組織活動全体の観点で学ぶなどの目標設定をした、Management of Technology (MOT) 教育プログラムを継続して実施している。また、平成 24 年度に研究・実践能力や応用力を高める教育を重視した、先進マテリアル工学教育プログラムを、平成 26 年度に環境調和材料工学教育プログラムとして継続しており、基盤科目と実践科目、国内外の関係機関でのインターンシップ（選択科目）の学修成果を専門分野の理解向上や技術力向上へ結び付け、研究に活かせる人材の育成を目指した教育プログラムを実施している。（中期計画 1-1-3-1）

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学生・社会のニーズに合った組織の見直し

中期目標（小項目）「科学技術分野における中核的人材の育成と質の保証のために、学士課程各学科・各コース、大学院博士前期課程及び博士後期課程の各専攻・各コースへの進学状況と社会からの要請を勘案し、学科・専攻の収容定員及びコースの学生数、コース構成並びに教員数について弾力的に運用する。」について、毎年度、大学院博士前期課程入学者の動向を踏まえた大学院の状況を、学部入学後に実施する新入生オリエンテーション、編入生ガイダンス、学部2年次又は3年次に実施する在学生セミナー及び学科・専攻で実施する進路ガイダンス等で説明を行い、進学と修学を推奨している。また、平成 26 年度に大学の強み・特徴である 7 分野を中心に教育研究を推進するため、博士前期課程を従来の 7 専攻 11 コースから 3 専攻 14 コースへ改組再編し、平成 27 年度の入学定員を 198 名から 224 名と 26 名増員するなど、学生・社会のニーズに合った組織の見直しに取り組んでいる。（中期計画 1-2-1-2）

## ○外国人留学生を受入可能とする環境作りの推進

中期目標（小項目）「科学技術分野における中核的人材の育成と質の保証のために、学士課程各学科・各コース、大学院博士前期課程及び博士後期課程の各専攻・各コースへの進学状況と社会からの要請を勘案し、学科・専攻の収容定員及びコースの学生数、コース構成並びに教員数について弾力的に運用する。」について、大学院工学研究科では、外国人留学生を受け入れることが可能な環境作りを目的として、平成 26 年度にシラバスへの英語併記の実施や、英語で実施している科目の授業参観を行うなど、英語での実施科目数の増加に向けた取組を行っている。また、平成 27 年度に留学生が安心して学生生活を送れるよう、大学近隣の民間アパートを借り上げ、留学生宿舎として運用するなどの取組の結果、博士前期課程留学生の割合は、平成 22 年度の 3.8%から平成 27 年度の 7.0%へ向上している。（中期計画 1-2-1-3）

## （特色ある点）

## ○北海道地区 7 国立大学の連携による双方向遠隔授業システムの導入

中期目標（小項目）「応用実践力、課題解決力、創造的思考力を育成するために、教育条件及び教育環境を構築する。」について、北海道地区の国立大学 7 大学が連携し、北海道地区国立大学の教養教育連携実施に関する協定書に基づく単位互換制度により、双方向遠隔授業システムを利用した連携教養科目を平成 26 年度後期から開講している。学士課程の卒業要件単位として連携教養科目を認定しており、連携大学と相互に教養教育科目を提供することで教養教育に多様性を持たせ、充実を図っている。（中期計画 1-2-2-3）

## （3）学生への支援に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○自治体との連携による石炭地下ガス化に関する研究の推進

中期目標(小項目)「知識・技術の創造的拠点として、各専門領域における基盤的研究、国の重点領域に関係する研究、産学官連携・地域連携・国際連携による共同研究等を推進する。」について、環境科学・防災研究センターでは、第1期中期目標期間(平成16年度から平成21年度)から継続して実施している石炭地下ガス化(UCG)に関する研究を更に推進するため、平成24年度に北海道三笠市と包括連携協定を締結し、三笠市の研究施設を拠点に石炭地下ガス化の実用化に向けた実験を行うとともに、市民を対象とした実験見学会、体験学習等を通して地域の活性化に取り組んでいる。(中期計画2-1-1-1)

(2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅲ) その他の目標

## 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(4項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## 2. 中期目標の達成状況

## (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## &lt;特記すべき点&gt;

## (優れた点)

## ○地域企業の技術推進に対する共同開発や新技術の普及

中期目標(小項目)「地域における知と技術の拠点として、本学を特徴づける研究の成果を社会に広く提供するとともに、地域や産業と連携して新たな知の創造と技術の創出を推進する。」について、平成23年度に社会連携統括本部を設置し、ギロチンシャー用耐摩耗切断刃の共同開発やホルンテーパ管冷間成型加工機の開発等の新技術を普及し、地域の活性化を促進している。平成27年度に文部科学省の地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の採択により、室蘭工業大学を拠点とする「「ものづくり・人材」が拓く「まち・ひと・しごとづくり」」の取組として、北海道内の理工系4大学(北見工業大学、北海道科学大学、千歳科学技術大学、室蘭工業大学)、4工業高等専門学校(苫小牧工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、釧路工業高等専門学校、函館工業高等専門学校)、9自治体(北海道、室蘭市、北見市、札幌市、千歳市、苫小牧市、旭川市、釧路市、函館市)や企業等が参加するコンソーシアムを設立し、北海道での地方創生を図る事業を進めている。(中期計画3-1-1-1)

(2) 国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 北海道内7国立大学の連携による留学生に対する学部・大学院入学前教育の実施  
中期目標(小項目)「留学生及び研究者・技術者等の国際交流を拡大する。」について、北海道内の国立大学7大学が連携して、正規課程入学予定の留学生に対して、入学前の日本語教育や、入学後の学修に必要なスキル等の教育を実施することを目的とした協定を平成25年度に締結している。入学前教育プログラムの実施について、平成25年度に連携大学の学部入学予定者を対象に試行した実績を踏まえ、入学前の留学生に配慮した遠隔地からの受講を可能とする双方向遠隔授業システムが平成28年度から利用できるよう授業計画を整備している。

(中期計画 3-2-3-2)

(3) 大学連携に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「大学連携に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 地域連携による地域人材育成に係る教育プログラムの構築  
中期目標(小項目)「北海道内外の大学と連携し、教育・研究の質の向上を図り、また地域貢献を発展させる。」について、平成27年度に文部科学省のCOC+の採択により、コンソーシアムを設立することで、北海道内の大学等と連携し、地域人材育成に係る教育カリキュラムを構築している。また、東京都市大学と連携し、TV会議システムを活用したファカルティ・ディベロップメント(FD)研究会や学生の連携研究発表会等の実施、事務職員の相互派遣等、情報通信技術の活用及び連携機関との教育研究の交流に取り組んでいる。(中期計画 3-3-1-1)

(4) 男女共同参画に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「男女共同参画に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。



《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
科学技術分野における中核的人材を育成するために、学士課程と大学院博士前期課程を通じた教育を重視する。		良好	
1-1-1-1	学士課程のディプロマポリシー（学位授与条件）と大学院博士前期課程のアドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）の整合性を図る。また、学士課程の授業科目のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）及び博士前期課程の授業科目のカリキュラムポリシーが系統性を持つよう整備し、教育を行う。	良好	優れた点
学士課程では基礎学力と科学技術分野への関心をもち、総合理工学の学習に意欲をもった入学者を受け入れ、国際的に通用する知識・応用実践力・態度・創造力を備えた科学技術者を育成する。		おおむね良好	
1-1-2-1	学士課程での修学に必要な基礎学力・教養を維持・向上させるため、入学者選抜方法を改善するとともに、初年次教育、教養科目と基礎科学科目で構成する全学共通教育を充実させる。	おおむね良好	
1-1-2-2	専門教育においては、教育コースの教育の充実をはかり、状況に応じて演習、実験による少人数教育を実践する。	おおむね良好	
1-1-2-3	教育の質の保証として、厳格な成績評価と日本技術者教育認定機構（JABEE）基準に対応する教育を実施する。特に、デザイン能力、創造力、応用力、英語力を高める教育を実施する。	おおむね良好	
大学院博士前期課程では、科学技術に関するさらに高度な学習に意欲をもち、課題解決のための基礎的素養を備えた入学者を受け入れ、幅広い問題への関心と高い課題解決能力を備えた高度専門科学技術者を育成する。		おおむね良好	
1-1-3-1	研究・実践能力や応用力、プレゼンテーション能力、英語力を高める教育を重視して、博士前期課程の教育の質を向上させる。そのための教育プログラムを作成し、実践する。	おおむね良好	特色ある点
大学院博士後期課程では、前期課程修了者若しくは同等の学力を有し、工学のフロンティアにおける課題の発見と解決に強い意欲を備えた学生を受け入れ、研究者・高度専門科学技術者として育成する。		おおむね良好	
1-1-4-1	留学生、社会人を含む多様な学生を受け入れ、多様なキャリアパスに対応できる研究者・高度専門科学技術者を育成するためにディプロマポリシーを整備し、カリキュラムを再編し、それに基づき複数教員による指導を行う。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
科学技術分野における中核的人材の育成と質の保証のために、学士課程各学科・各コース、大学院博士前期課程及び博士後期課程の各専攻・各コースへの進学状況と社会からの要請を勘案し、学科・専攻の収容定員及びコースの学生数、コース構成並びに教員数について弾力的に運用する。		良好	
1-2-1-1	学士課程入学者の動向、入学後のコース選択希望の動向を定期的に点検し、コースの学生数、コース構成並びに教員数を必要に応じて改定する。	おおむね良好	
1-2-1-2	大学院博士前期課程入学者の動向を定期的に点検し、博士前期課程への進学と修学を推奨し、博士前期課程の入学定員を計画的に増員する。その際、専攻の収容定員及びコースの学生数、コース構成を必要に応じて改定する。大学院博士後期課程の定員充足に努めるとともに必要に応じて入学定員の見直しを行う。	良好	優れた点
1-2-1-3	学齢期にある日本人学生のみでなく、社会人及び我が国での科学技術教育を希望する外国人留学生を受入れることが可能な環境作りの方策を研究する。	良好	優れた点
応用実践力、課題解決力、創造的思考力を育成するために、教育条件及び教育環境を構築する。		おおむね良好	
1-2-2-1	少人数教育、習熟度別クラス、プレゼンテーション技法に適した教室や設備を整備する。教員の担当時間についても見直しを行う。	おおむね良好	
1-2-2-2	学士課程における問題解決型（PBL型）の授業科目には複数教員とTA及び必要に応じて技術職員を加えたチームによる指導体制をとる。	おおむね良好	
1-2-2-3	北海道地区の国立大学と連携し、教養教育を充実させる。	おおむね良好	特色ある点
教育内容と実施体制及び教育条件の改善のために、教育評価システム並びにFD実施体制を整備する。		おおむね良好	
1-2-3-1	大学経営評価指標、学生による授業アンケート、教員業績評価システム（ASTA）等のデータを用いて教育内容・実施体制・教育条件を評価・改善するシステムを確立する。	おおむね良好	
1-2-3-2	FD研究を行う組織を充実し、学士課程教育についてFDを引き続き実施する。また、大学院博士前期課程教育についてFDを実施する。	おおむね良好	
総合的な理工学教育に関する研究と創造的な教育プログラムの開発を行う。		おおむね良好	
1-2-4-1	総合的な理工学教育に関する研究を組織し、創造的な教育プログラム開発を推進するために重点的に予算措置する。	おおむね良好	
入試全般及び高大連携を一元的に推進する組織を整備する。		おおむね良好	
1-2-5-1	アドミッションオフィスを設置し、多様な入試方法に対応して、入学期の学生の学習を支援する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
学習に関する環境や相談の総合的な体制を整え、学習支援を効果的に実施するとともに、専門性を生かした職種等への就職を支援するため、就職支援体制を整備する。		おおむね良好	
1-3-1-1	チュータ制、TA、情報機器応用等による学習支援体制を検証し、充実させる。	おおむね良好	
1-3-1-2	キャリア・サポート・センターと学科、専攻の連携を強化し、学部と博士前期課程のインターンシップ、キャリア教育、就職支援体制を充実させる。	おおむね良好	
学生の生活に関する相談・支援体制を整え、学生の生活環境を改善する。		おおむね良好	
1-3-2-1	カウンセリング体制の充実を図るなど、メンタルヘルスクアを進める。 また、大学院博士前期課程・後期課程への進学促進、修学を継続できるような支援体制を整備する。	おおむね良好	
学生の学内情報アクセス環境と実習環境を整備し、情報の取得、情報交換、学生の自発的・意欲的な学習や実習を支援する。		おおむね良好	
1-3-3-1	図書館、情報メディア教育センターの学習利便性を向上させるとともに、図書館と情報メディア教育センター等の機能を見直し、相互の連携を強化する。	おおむね良好	
1-3-3-2	ものづくりや創造力を高める学生実験等の支援体制を充実させる。	良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		良好	
知識・技術の創造的拠点として、各専門領域における基盤的研究、国の重点領域に関係する研究、産学官連携・地域連携・国際連携による共同研究等を推進する。		良好	
2-1-1-1	国の科学技術重点領域に対応する研究課題を意識した研究を展開して、研究の成果を学術論文誌、国際学術集会等で発表するとともに、地域の活性化、新産業の創出を目指し、産学官連携・地域連携・国際連携による共同研究等を展開する。	良好	特色ある点
重点的科学技術分野を設定し、独創的・先進的研究を戦略的に推進する。		良好	
2-1-2-1	大学が重点的に取り組む特定研究分野として、環境科学・防災分野、航空宇宙機システム分野、新産業創出分野を設定し、国際水準の成果を達成する。	良好	
学術研究成果の論文発表、並びに研究成果に基づく特許等の取得を積極的に進め、それらの研究水準及び成果を評価・検証して、研究を推進する。		おおむね良好	
2-1-3-1	各領域、研究センター毎に、中期目標期間前期、後期及び各年度計画を作成し、それに基づいて研究を推進する。研究プロジェクトの研究水準、成果を定期的に評価・検証する。それに基づいて、領域、研究センターの研究プロジェクトに対し、必要な支援を行う。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 研究実施体制等に関する目標		おおむね良好	
研究活動を量・質ともに向上させるために、組織的・系統的な研究を展開できる体制を構築する。		おおむね良好	
2-2-1-1	組織的・戦略的な研究を推進するために、研究推進室（仮称）を設置する。	おおむね良好	
2-2-1-2	教員組織である研究領域内の自発的な研究グループの形成により基盤的研究を進める。また、研究グループに研究プロジェクトの立案を促し、プロジェクト研究を推進する。	おおむね良好	
2-2-1-3	重点的研究分野における研究を組織的・集中的に促進するため、必要に応じて研究センターを設置する。	おおむね良好	
研究活動の活性化及び継続を図るために若手研究者への支援を促進し、技術職員の研究支援機能を高める。		おおむね良好	
2-2-2-1	若手研究者の参画するグループ研究、プロジェクト研究を積極的に推進する。また、現在のポストドクトラル制度を見直し、より効果的、積極的に活用できるようにする。	おおむね良好	
2-2-2-2	技術職員の研究支援のあり方と組織体制を見直し、技術職員の新規技術の取得並びに技術部の総合的な技術力を向上させる。	おおむね良好	
研究基盤である共同利用施設の整備と利用を進めるとともに、重点分野をはじめ研究の活性化に必要な設備を導入する。		おおむね良好	
2-2-3-1	学内共同利用施設の設備・機器の設置状況と利用状況に関するデータベースを整備・公開し、利用促進、設備の拡充と高度化、附属図書館の電子情報化を進め、研究基盤を強化する。	おおむね良好	
研究活動の評価システムを改善するとともに、研究活動の活性化を推進し、質を向上させる。		おおむね良好	
2-2-4-1	研究活動に関するデータベースを整備し、積極的に学内外へ情報公開する。研究水準、研究成果、研究体制等については教員データベースを有効に活用して、定期的に自己評価及び外部評価を行い、研究の活性化を促す。	おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
地域における知と技術の拠点として、本学を特徴づける研究の成果を社会に広く提供するとともに、地域や産業と連携して新たな知の創造と技術の創出を推進する。		良好	
3-1-1-1	本学における研究成果を知的財産として形成し活用するための知的財産本部と、共同研究等を通じて地域連携・産官学連携を進める地域共同研究開発センター（CRDセンター）が一体となって、新技術を普及し、地域の活性化を促進する。	良好	優れた点
生涯学習の需要、理工系の啓発活動、教員免許の更新時講習及び産業界・官公庁等の再教育・技術教育の要請等に積極的に応え、知の地域拠点としての役割を果たす。		おおむね良好	
3-1-2-1	各種公開講座、小中高生に対する理工系分野の啓発活動に向けての大学開放事業、初中等教育機関教員の免許更新時講習、CRDセンター及びものづくり基盤センターの研修・講習プログラムを実施する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
産業界、官公庁、金融界との包括的連携を発展させ、人的交流を促進し、大学・地域双方の活性化を進める。		おおむね良好	
3-1-3-1	産業界、官公庁、金融界から大学へ講師等を招致し、大学からは各種審議会等へ専門家を派遣することを通じて、社会と大学間の人的ネットワークを強化する。	おおむね良好	
社会人の人材育成事業に協力し、我が国の政策的人材需要に応える。		おおむね良好	
3-1-4-1	イノベーション、新産業育成等に関する国の政策的人材需要に主体的に対応し、これらの人材を育成する教育プログラムを策定、実施する。	おおむね良好	
② 国際化に関する目標		おおむね良好	
教育の国際貢献と本学の一層の国際化を目指し、大学間交流、学生交流、研究者交流を促進する。		おおむね良好	
3-2-1-1	学術交流協定校を拡大し、交流を促進するために、海外研修交換プログラム、学生による国際コンペティション、共同セミナー等、交流事業を実施する。	おおむね良好	
成果を国際的に発信するため、重点的に取り組む特定研究分野はじめ特色ある研究分野においては、国際的な研究集会を開催する。		おおむね良好	
3-2-2-1	国際共同研究を展開し、国際的な学術集会を開催するとともに大学院学生を含めた研究成果の発表を促進する。	おおむね良好	
留学生及び研究者・技術者等の国際交流を拡大する。		おおむね良好	
3-2-3-1	本学の留学情報発信を強化して優秀な留学生の招致に努め、またこのための人的ネットワーク形成を支援する。各種基金を活用して留学生の修学、研究者及び学生の国際交流を支援し、また海外からの短期滞在受け入れのための宿泊施設などを確保する。	良好	
3-2-3-2	北海道地区の国立大学と連携し、入学前の留学生を対象とした準備教育に取り組む。	おおむね良好	特色ある点
③ 大学連携に関する目標		おおむね良好	
北海道内外の大学と連携し、教育・研究の質の向上を図り、また地域貢献を発展させる。		おおむね良好	
3-3-1-1	文部科学省の戦略的大学連携支援事業等を活用し、教育交流、研究交流を進める。また連携大学と共同して大学院教育プログラム等を開発する。これらのために情報通信技術を活用する。	おおむね良好	特色ある点
④ 男女共同参画に関する目標		おおむね良好	
男女共同参画を積極的に推進する。		おおむね良好	
3-4-1-1	男女共同参画推進室（仮称）を設置し、基本計画を立案して実施する。	おおむね良好	